



# タモトユリ

## 9月号

十島村立  
口之島小中学校  
児童生徒会新聞  
9月29日発行

### いくぞー！魚を追い込め

#### かご4杯分の魚GET！

今年は十人で追い込み漁をしました。追い込み漁とは網をはって、そこに遊び寄せる漁です。すると次々に、魚が絡まりました。熱帯魚やハリセンボンもいて、熱帯魚は、とてもきれいでした。今年は一味違う追い込み漁になったようです。

日差しが強くて、熱中症になりそうなくらい暑かったです。去年は、雨が降っててきなかつたので、二年ぶりの追い込み漁でした。だから、この日をとて楽しみにしていました。海に行くまでは、小石の上を歩いて行きました。こけないように慎重に歩いて何度かこけそうになりました。そして、小石との戦いはやっと終わり、ようやく海に入りました。網の所へ行くと、いろんな魚がかかっています。まさか、サメが取れるとは思わなかったのでびっくりしました。みんなでたくさん魚が取れてよかったです。《小六》

七月は追い込み漁がありました。私は網に引っ掛かった魚を捕まえようとしたら、珠来さんが網に引っ掛かったと聞こえたので、怖くて、魚を取れませんでした。ちょっと勇気を出して、魚を触れたので良かったです。《小二》

たにないのでとても迫力がありました。ハリセンボンは、針を出して顔を膨らませていました。僕は、このような経験は、島でしかできないと思いました。《中二》

今年、サメが二匹ひっつかっていました。サメを見た経験が少ないので驚きました。今年、サメやハリセンボンに驚き、海と魚もきれいで前回とは違う追い込み漁になりました。こんなことが体験できるのは口之島でしかないかもしれない。だから、追い込み漁を手伝ってくれた人に感謝です。《文責・小五》

### 夏！最後の最高の思い出

#### たまやー きれいな花火

七月二十二日の午後七時四十五分から暗くなった校庭のあちらこちらにキラキラ光り始めました。例年は、臨海学校や夏の終わりのイベントの夕涼み会などで手持ち花火や打ち上げ花火をしていました。今年、コロナウイルス感染防止対策のため、どちらも中止だったので、少しでも、口之島の子どもに楽しんでもらいたいと地域の方々が花火大会を企画してくれました。

七月二十二日に、花火大会がありました。手持ち花火と打ち上げ花火の2つが行われました。手持ち花火は、家族としかやったことがなかったので、友達とするのは、新鮮で楽しかったです。打ち上げ花火は、とても近くで見ることができて、とても迫力がありました。2つとも、ぼくにとっては、とても新鮮で、とてもきれいでした。《中二》

僕も一期君のように花火大会で打ち上げ花火を近くで見、とても迫力があり、とてもびっくりしました。また来年もやりたいです。《文責・中二》

パチパチパチ 花火大会が始まった。私が始めに手にとったのは黄色くはじける花火。火をつけるまではどういふふうになるのか分からぬのが花火の楽しみだ。「ゴオー。わあ。これははじけるんじ

やなくて一直線だ。いろんな色に光ってきれいだな。次は二つ持ってやる。次は三つに増やそうかな。そつだ。違う種類の花火を二つずつもったらもつときれいかも」といろいろやってみた。次は打ち

上げ花火だ。シユワシユワ。パン。ドッカーン。「すごきれいな。あ。終わりかな。いやまだあった。いつ終わるのかな。」と終わると花火大会が終わった。楽しかったな。《小三》

僕は、稲刈りをするのが初めてでした。最初は、稲をわたされてひもを結んでいきました。そしたら一輪車に満ぱんになりました。こんなに早く満ぱんになるとは思いませんでした。次は、稲を刈る方になりました。みんな、いそいでかまを動かしていたので、僕も急いで稲を刈りました。だから、いっしゅ



#### バッタも驚く 大量もち米

「パチンパチパチ」と何かがぶつかる音がする。七月二十一日の五・六時間目の暑い時、みんなそろって稲刈りをした。運動会の赤組・白組に分かれてすることに、前半は赤組だった。赤組の中には僕も入っていて、たくさん刈ったつもりだった。でも、半分、終わらなかった。その後の白組は、刈るのが

早く、いっしゅんというほどで終わった。その後は、落ちていた米を拾うことになった。でも、バッタの大量移動にあたって「痛い」と声をあげて、逃げているのかなと思った。夏休み、脱穀していいお米になりますように。《小四》

僕は、稲刈りをするのが初めてでした。最初は、稲をわたされてひもを結んでいきました。そしたら一輪車に満ぱんになりました。こんなに早く満ぱんになるとは思いませんでした。次は、稲を刈る方になりました。みんな、いそいでかまを動かしていたので、僕も急いで稲を刈りました。だから、いっしゅ

#### かまで刈って ひもで結んで

僕は、稲刈りをするのが初めてでした。最初は、稲をわたされてひもを結んでいきました。そしたら一輪車に満ぱんになりました。こんなに早く満ぱんになるとは思いませんでした。次は、稲を刈る方になりました。みんな、いそいでかまを動かしていたので、僕も急いで稲を刈りました。だから、いっしゅ







# 村誌から読み解け!!

## まだ知られていない口之島の歴史

前号特集である今戦についてヒデ子さんにインタビューを行った。その際にヒデ子さんの半生や戦争などについてもインタビューさせていだいた。インタビューで、ヒデ子さんの家に訪れると、「あのときは急に声をかけて、びっくりしたでしょう。」と僕に声をかけてくださった。実は、僕はヒデ子さんに会うのは二度目だった。前にも声をかけられ、ほんの少しの時間の出来事だったが、僕のことをよく覚えていた。僕は、本当に百一歳なのかと疑うぐらいすごい記憶力で、話し方もハキハキしていて、とても元気だと思った。《中二》

ヒデ子さんは、「どうして大阪にいったのか」という質問をすると、弟のために口之島を立った思いやそのあとの苦労、また昔の時代だからこそその困難など、柔らかな優しい雰囲気です。語り始めた。

ヒデ子さんは、中村家の七人兄弟で三番目に生まれた。中村家は、昔から男子が生まれにくい家系でした。「三番目に私

### ヒデ子さんの主な年表

1919年1月	ヒデ子さん誕生
1937年	日中戦争(18才)
1941年	太平洋戦争(22才)
1945年	太平洋戦争終わる(26歳)

その状況で、百姓であった中村家は、貧しく、学校に行きたくても、行けない状況であった。そのため、「私が、弟のために働いてお金を儲

昭和の初め、口之島の学校教育は、一九二八年(昭和三年)に県議会のやり取りがきっかけとなり始まった。そのやり取りは大事にしていたんですよ。」と語った。

# 追い込み漁



中1

# 西へ西へと思いを募らせ

けて、送って、学校に行かしてやろうと思ったので、親にそう言ったら、行かした子を学校に行かしたから、家を出たんです。その子のために働きに行くことにしたの。」とヒデ子さんは話した。



村誌 P694 より転載 フェリーとしま2の約12分の1の大きさ

### 歴代村営の定期船

就航年度	船の名前
1933年	十島丸
1941年	金十丸
1953年	八島丸
1958年	第2十島丸
1971年	第3十島丸
1985年	としま
2000年	フェリーとしま
2018年	フェリーとしま2

当時の様子を次のように語る。「私は、働いて働いて、お金を仕送りしないといけないです。」と島弁で言っていたのかと働かしてもらいました。給金は、一日四十五銭、一食五銭ずつの十五銭差し引かれる。朝ごはん・昼ごはん・晩ごはんつても残らない。何年かかかって、いくらか分らないから送りたい言ってもないんだもん。お金がね。」それでも、働き続け、そ

ヒデ子さんも「今みたいに港がなかったから、大きな汽船が沖に泊まっていた、小さいボートで、その船まで行くんで

昭和以前は村営航路が開通されていなかった。そのため、口之島の船は十島村の難破船員を便乗させなかったり、定期に寄航しないこともあったりするなど、様々な問題があった。その後、いろいろ働きかけがあり、一九三三年(昭和八年)に村営航路が開通された。

裁縫。女の人は、第一に裁縫。私たちに何か伝えたことはありますか。

大阪で働いていると、きどんな様子でしたか。大阪の会社は、何十人と働いている大きな日本紡績という会社でね。大阪の仕事をしていくうちに、戦争が激しくなると、男の方は全部召集で連れて行かれた。私たちがしていた仕事は、ベルトが動く、大きな機械も使っていて、それに不注意でも、巻き込まれたら、手も足もちぎれてしまう。そこで仕事をしないといけない。十五の守りやからということ、男の人の仕事、全部引き受けて、あとに残った、年寄りとか、私ら女の子とかでね。

# 私のオススメの〇〇

私のおすすめする本は『事故物件怖い間取り』です。おすすめする理由は、作者の芸人松原タニシさんが、実際に事故物件に住んでみて起こったことや知り合いの方に起こったことを書いていて、とてもゾクゾクしておもしろいからです。この本はとても怖いと思うところや、それとは逆にとてもおもしろいと思うところもあり、とてもワクワクします。ぜひ、本屋に行く際は、手にとつて読んでみてください。《中二》

健康な体を作つて病気をせんように努めてほしい。今回、インタビューをして感想を書いてもらった。ヒデ子さんは、子どもの頃にこんな苦労をしていてすごいと思いましたが、ぼくたちもヒデ子さんまでにはいかないけど、がんばっていきたいと思います。《中二》

私もヒデ子さんが弟さんのために、両親にも言わないで大阪へ働きにいったすごいと思った。一日わずかなお金しか稼げなくても、少しでも送りたいという気持ちで十分に伝わってきた。辛くても諦めないで、弟さんのために頑張るといふ心を世界中の人々に知ってほしい。また、戦争はこわいと思つた。昔の人に比べたら私たちがめぐまれていると感じた。《文責・中一》